

ブータン AI 画像診断支援ソリューション

ブータン王国は、ヒマラヤ山脈の東端に位置し、中国及びインドに国境を接する面積約 38,394 km²・人口約 76 万人の内陸国であり、国民総幸福量（Gross National Happiness : GNH）の最大化を国家開発の中心理念に位置付けているユニークな国です。

「持続可能で公正な社会経済開発」、「環境の保護」、「文化保全と促進」、「善良な統治」の 4 つを政策のテーマとして定めており、中でも国民に対する基本的な医療サービス（プライマリーヘルスケア）の無償提供を国の重要な政策の一つとしています。しかしながら、現状では病院数の不足、必要なスキルをもった医師及び医療スタッフの不足、医療インフラの未整備・老朽化などの問題を抱えており、特に国内に数人しかいない放射線科医と放射線技師の過重労働が大きな問題となっております。

JTEC は、このようなブータン国の医療環境の改善を支援するべく、2023 年 7 月より、同国の保健行政の管轄省庁である Ministry of Health (MoH)、同省直下で保健サービスの運用を担う National Medical Services (NMS)、Jigme Dorji Wangchuck National Referral Hospital (JDWNRH)、唯一の医科大学として同国の医療人材育成を担う Khesar Gyalpo University of Medical Sciences of Bhutan (KGUMSB)、IT や情報通信に関する政府機関である GovTech Agency、行政システムの開発運営にあたる公的企業である Thimphu Tech Park Ltd (TTPL) など、広範なステークホルダーと面談を行い、ブータンの医療環境の改善に向けて、どのような支援が可能か、インドの医療 AI スタートアップである DeepTek 社と連携して、現地調査を実施しました。

その後、2023 年 12 月に、JTEC が提案する「ブータン王国における AI を活用した画像診断支援ソリューションの導入可能性に関する調査研究」が総務省事業として採択されたことから、本年 1 月初旬から 3 月末にかけて、AI 画像診断支援システムを有する DeepTek 社と共同で、本格的なフィージビリティスタディを実施しました。

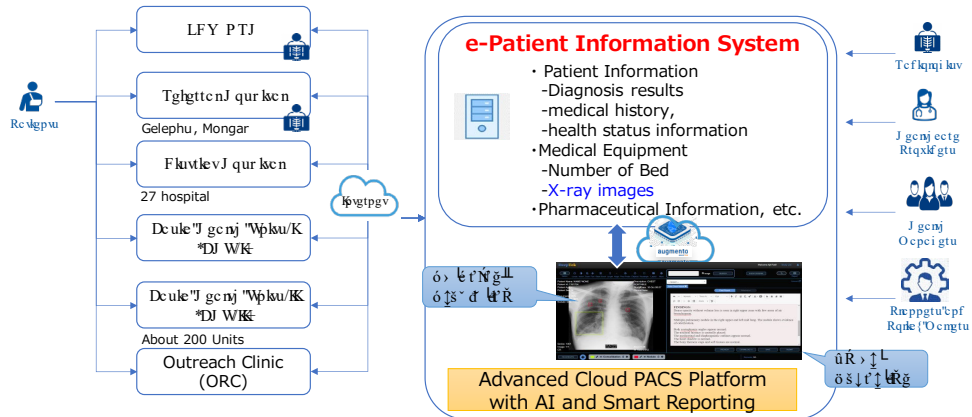
現在ブータン政府は、2024 年 6 月完成を目標として、医療分野のデータ連携基盤（ePIS : e-Patient Information System）の構築を進めており、この ePIS と AI 画像診断支援システムとのシームレスな統合を最重要課題として、上述の様々なステークホルダーとの協議、地方の病院も含む現場の医療関係者へのインタビュー、実際に DeepTek 社のシステムを使ったトリアルのフィードバックをまとめて、3 月 28 日に現地でブータン政府関係者向けに報告会を開催し、その取り組みに対して高い評価を戴きました。

JTEC は、医療 DX の推進をテーマとして、データ連携の促進による医療現場の効率化、都市と地方の医療格差の解消等を実現し、よりよい医療サービスを全ての国民が享受できる社会の実現に少しでも貢献できるよう、ブータン政府を支援して参ります。

ブータンの医療施設全体で利用可能なAIを活用した画像診断ソリューション



- ePISとリンクしたRadiology Platformの導入により、既存の放射線技師のプールを効率的に利用可能
- AIとスマートレポートのユニークな組み合わせは、生産性、レポートの質、ターンアラウンドタイムを改善



⇒データ連携 x 遠隔医療の促進により、医療現場の効率化、医療格差の解消を促進

